５月３日　ヨハネによる福音書４章３１～４２節　【解説と黙想】

「信じて歩む道：神と人に仕えて生きる」

テキストの解説

31～38節

「あなたがたの知らない食べ物」とは、見えない霊的な食べ物のことで、主イエスはそれが「わたしをお遣わしになった方(父なる御神）の御心を行い、その業を成し遂げることである」と語っておられる。父なる神様と主イエスの御心は一つである。主がそうであられたように、私たちも、神の言葉を実践し、御心に従って生きる時に、初めて、真の意味で生きる。「成し遂げる」は、十字架上の言葉である『成し遂げられた』（ヨハネ19：30）と類語であり、主イエスを「お遣わしになった方の御心」とは、究極的には罪を取り除く贖いの小羊として、十字架に御自身を献げることであった。

35節以下は伝道に関する展望。通常、種蒔きから刈り入れまでは、４ヶ月待たなくてはならなかった。35節は、種は蒔かれたが、御言葉が働き、４ヶ月を待たずに、実が実り、刈り入れを待っているのである。種蒔きと刈り入れが続くのは、神様の時代における夢であった（アモス書9：13)。刈り入れとは、終末的裁きではなく、救いへと、入れられるということと解釈できる。36節の「刈り入れる者」とは、魂を導き、救いに入れる、主御自身、または神の働き人達のことであろう。

ここで、「種を蒔く人も刈る人も、共に喜ぶ」ということは、御言葉の種蒔きをする人も、魂の刈り入れをする人も共に、魂が神の下に獲得されることを喜ぶことを言っている。

37、38節は、古典的には、主イエスが伝道を開始され、弟子達がその労苦の実りにあずかっていると理解されている。また、主イエスの十字架によって、種が蒔かれ、その刈り入れを教会が引き受けることが想定されている。

別の見解として、ここで主によって開始されたサマリア伝道が、使徒８章５節でフィリポによるサマリア伝道がなされたことへと繋がるという解釈がある。この場合、御言葉の種は、長い時間と、多くの人達の労苦を経るが、やがて実り、刈り入れに至るという意味が導き出される。

39～42節

「とどまる」はヨハネによる福音書では44回使用され、主イエスが誰であるかという、キリスト論的問いと結びついている。主が二日間、滞在され（とどまられ)、主イエスから御言葉を聞いた結果、主イエスが「世の救い主」であるという告白が導き出される。これは、キリスト論的称号の中でも、最もスケールの大きい告白である。「言葉を聞いて信じた」は、しるしによる表面的信仰と対比される。証という間接的導きから、主イエスから直接、御言葉を聞くということによって信仰が生まれていくのである。

子どもへのメッセージ

私たちの証や教会への誘いが用いられ、聖書から直接主イエスの御言葉を聞くことを通して、信仰の告白へと導かれる。そして、御言葉の種は必ず実る。主イエスの御心なので、御言葉の種を蒔き、魂を導くき、刈り入れる働きに励もう。　（袴田清子）

《参照聖句》　詩編１２６編５，６節、アモス書９章１３節、
マタイによる福音書２８章１８～２０節
《教理問答》　子どもと親のカテキズム 問４４

５月３日　ヨハネによる福音書４章３１節～４２節　【説教展開例】

「信じて歩む道：神と人に仕えて生きる」

◇…… 単元のねらい ……◇

「人生の目的は、神を喜び、神に仕えて歩むこと。あるがままの姿で主に仕えよう」

「主は私たちを用いて、人を救いに導かれる」

イエスさまは、ガリラヤに戻られる途中で、どうしてもサマリアを通らなくてはなりませんでした。そこには、昔昔に、ヤコブが掘った井戸がありました。イエスさまは疲れて、井戸のそばに座っておられました。弟子たちは町に食べ物を買いに行っていました。ちょうど太陽が高々とのぼっている正午頃、サマリアの女性が水をくむためにやって来ました。普通は朝、水をくみに来るのに、この女性は他の女性たちに出会いたく無かったので、真っ昼間、暑い中水をくみに来たのです。

イエスさまは、この女性に「水を飲ませて下さい」とお願いしました。イエスさまはくむ物を何も持っておられなかったのです。しかし、この女性は、とても驚きました。と言うのは、ユダヤ人とサマリア人は仲良く無かったからです。その上、イエスさまのようにラビと呼ばれる先生たちは、女の人と話すことをしないかったからです。

イエスさまは、この女の人に、御自身が「生きた水を与える」御方であること、またイエスさまが与える水を飲む人は、「決して渇かない」、それどころか、イエスさまの与える水は「その人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」と真理の御言葉を教えてくださいました。そして、女の人の罪も指摘されました。実は、６人も夫がいて、しかも６人目とは同棲中だと、イエスさまは言い当てられたのです。イエスさまには何もかもお見通しだったのです。

女の人は、罪を言い当てられて、心を指されますが、イエスさまを預言者だと考え始めます。そして、サマリア人とユダヤ人は礼拝する場所が違うけど、どこで礼拝したら良いのですか？　と尋ねます。神さまを礼拝する場所についての質問をしたのですね。すると、イエスさまは言われました、礼拝する場所が問題なのではなく、「神さまを礼拝する人は、霊と真理によって礼拝しなければならない」と。

女の人はイエスさまに言います。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来ることは知っています」。すると、「それは、あなたと話をしているこのわたしである」と、目の前におられるイエスさまが、はっきりと言われたのです。女の人は、びっくりしました。

このイエスさまがメシアだと聞いた女の人は、水をくむために持って来ていた水瓶を、井戸の傍らに置いたまま、町にすっ飛んで行ったのです。「さあ、見に来てください。わたしが行ったことをすべて言い当てた人がいます。もしかしたら、この方が

メシアかも知れません」。自分がイエスさまと出会い、お話をして、聞いた御言葉、体験したことを、町の人たちにそのまま証し、実際に来て確かめるように誘いました。女性の身の上を知っていた町の人たちは、この女性の言うことは本当だと感じました。自分のことを悪く言う人たちのいるところに、自分から飛び込んで行くことは、絶対にしないことだからです。この女の人は、イエスさまが救い主だと分かったのです。だから、町の人たちの所に飛び込んで来て、確かめるように言ったのです。町の人たちはこの女性の言葉を信じました。

ちょうどその頃、食べ物を手に入れた弟子たちは、イエスさまのところに帰ってきました。「先生、食事をどうぞ」。するとイエスさまは、「わたしにはあなたがたの知らない食べ物がある」と言われたのです。この食べ物は、イエスさまの霊的な食べ物のことでした。

イエスさまの食べ物とは、父なる神さまの「御心を行い、その業を成し遂げること」でした。そして、その最も大変で、偉大な業は、私たちの罪のために、イエスさまが御自身を献げて、十字架にお掛かりになったことです。イエスさまは、御自身の十字架の死とそこからの復活を通して、私たちの罪が赦されるようにしてくださいました。そして、イエスさまを信じて救われる人が、一人でも多く起こされるということが、イエスさまの霊的な食べ物なのですね。

イエスさまは弟子たちに言われました。「あなたがたは『刈り入れまで、まだ４ヶ月もある』と言っている。しかし、畑を見なさい。色付いて刈り入れを待っている」。サマリアの女の人は、イエスさまの御言葉を聞いて、直ぐに信じて、救われました。それまで罪の生活の中に生きていた女の人は、イエスさまを信じて、永遠の命を与えられたのです。

種蒔きは大変な仕事です。一人で大きな種の袋を担いで、種を蒔いて行くのです。同じように、御言葉の種を蒔くことは、時として、一人で涙と共になす仕事です。

しかし、イエスさまが御言葉の種を蒔かれると、直ぐに刈り入れが来たように、聖霊なる神さまが働かれると、御言葉は直ぐに実りを与えられることもあります。刈り入れは時期が大切です。ほおっておくと、実が腐ってしまうこともあります。だから、刈り入れる人は、よく見て遅れてはならないのです。「あなたがたは『刈り入れまで、まだ４ヶ月もある』と言っている。しかし、畑を見なさい。色付いて刈り入れを待っている」。ちゃんと鎌を入れるなら、素晴らしい刈り入れが待っています。

しかし、イエスさまは、ずっと後になってから刈り入れの時がくる場合もあることを御存じです。蒔いたことも忘れていた御言葉が、思いもしないところで、育ち、実って、刈り入れる時になっていることもしばしば起こります。「あなたがたが自分の労苦しなかったものを刈り入れるために、わたしはあなたがたを遣わした。他の人が苦労し、あなたがたはその労苦の実りにあずかる」ことが起こるのです。

町の人たちは、この女の人の、ありのままの証を通して、イエスさまのところに導かれました。イエスさまのことを知れば、もっと話しが聞きたい、もっと知りたいと思うものなのです。それで、町の人たちは、自分たちのところにとどまってくださるよ

うに頼みました。イエスさまは、２日間もそこに泊まってくださり、御言葉を語ってくださいました。イエスさまのお話を十分聞くことが大切なのですね。

私たちはどのようにして、イエスさまのお話を聞けるのでしょうか。それは、聖書を通してです。そして、聖書を解き明かしてくださる説教を通してです。

イエスさまから直接御言葉を聞いた人たちは、もう、女の人が話してくれたことによってではなく、自分でイエスさまから御言葉を聞いて、分かったと言いました。イエスさまが、「本当に世の救い主である」と分かったのです。

イエスさまは、この女の人をお用いになったように、私たちも用いてくださいます。イエスさまからお話を直接聞くことが出来れば、最も正しく、素晴らしい分かりかたで、イエスさまが救い主であると分かるようになります。

皆さんも、イエスさまの食べ物、イエスさまが本当に喜ばれる、人を救いに導く働きのために、自分が知っているイエスさまのことを、そのままお友だちにお話しし、教会に誘ってください。イエスさまのところに誘って来てください。そして、蒔く人も、刈り入れる人も、共に喜ぶようにされたいですね。（袴田清子）

《今週の暗唱聖句》

御言葉を宣べ伝えなさい。折りが良くても悪くても励みなさい。

（テモテへの手紙二４章２節）

５月３日　ヨハネによる福音書４章３１節～４２節　【分級展開例Ａ】

「信じて歩む道：神と人に仕えて生きる」

〈展開例〉

イエス様について他の人に話し、伝えることは、クリスチャンに与えられた最も大きな祝福であり、喜びであることを伝えることを目指す。

・伝言ゲーム

通常の伝言ゲームよりも少人数で、年少者が楽しめる伝言ゲームをし、「『言葉』をじょうずに伝える」ことを経験する。

①先生が、子どもに短い聖句を教える。
（暗唱聖句、二テモテ4：2など）
②もう一人の大人のところまで行って、覚えた聖句を伝える。
③伝えられた大人は、必ずお礼を言う。覚えていない、間違えて伝えても指摘しない。
CS 教師がいない場合は、教会内の他の大人の方に事前にお願いしておくと良い
④子どもは先生のところに戻って、報告する。先生は伝えてくれたお礼を言う。

５月３日　　ヨハネによる福音書４章３１節～４２節　　【分級展開例Ｂ】

「信じて歩む道：神と人に仕えて生きる」

1．イエス様はサマリアを通りました。そこにあった井戸は誰が掘りましたか。

2．イエス様と出会った女性はどうしておどろいたのでしょうか。

3．イエス様は水をくむ桶をもっていないのに「生きた水」を与えることができるのでしょうか。

4．サマリアの女の人は自分の罪をあてられてどきっとしたでしょうね。そこでイエス様のことをどんな人だと思ったでしょうか。

5．サマリアの女の人は「メシアが来られることを知っています」と言いました。そして自分が話しているのがその方だとイエス様から教えられてからどうしたでしょうか。

6．サマリアの女の人と普段は話さない町の人がどうして、イエス様のところまで行ってみようとおもったのでしょうか。

7．イエス様は弟子たちに「あなたがたは『刈り入れまで４か月もある』言っている」ではないかといわれます。そして畑を見なさいと言われます。イエス様は本当に畑の話をしているのでしょうか。

8．イエス様の時代の種まきはどんなだったでしょうか。「一人が種を蒔き、別の人が刈り入れる」ということわざをイエス様は何のたとえで語られたのでしょうか。

9．サマリアの女の人のありのままの話が町の人をイエス様のところへ導きました。でも町の人にはサマリアの女の人の話は必要がなくなりました。どうしてでしょうか。

５月３日　　ヨハネによる福音書４章３１節～４２節　　【分級展開例Ｃ】

「信じて歩む道：神と人に仕えて生きる」

1．イエス様はサマリアを通りました。そこにあった井戸は昔、族長のイサクが掘ったと伝えられている井戸です。サマリア人とユダヤ人は当時、仲が悪く交際をしませんでした。それなのにどうしてイエス様はサマリアの女性に話しかけたのでしょうか。

2．イエス様は旅に疲れている様子ですし､水をくむ桶をもっていないのにどんな風に｢生きた水」を与えることができるのでしょうか。

3．サマリアの女の人は自分の罪をあてられてどきっとしたでしょうね。皆さんも聖書を読んでいて自分の悪い姿をそこで見つけたりしてどきっとしたことはありますか。教会学校の話で自分の毎日の生活を反省させられたことはあるでしょうか。

4．サマリアの女の人は「メシアが来られることを知っています」と言いました。そして自分が話しているのがその方だとイエス様から教えられてから、町に向かって走りだしました。イエス様のことを伝えたかったからです。何度も結婚をしていたのである程度の年齢の女性です。走るのはきつかったかもしれません。それでも町に急いだのです。イエス様や教会のことをお友達に話したことはありますか。

5．さて、サマリアの女の人と普段は話さない町の人はびっくりした。これは何かあったと思ってイエス様の所に一緒にいきました。

6．イエス様は弟子たちに「あなたがたは『刈り入れまで4か月もある』言っている」ではないかといわれます。そして畑を見なさいと言われます。イエス様は本当に畑の話をしているのでしょうか。イエス様の時代の種まきはどんなだったでしょうか。「一人が種を蒔き、別の人が刈り入れる」ということわざをイエス様は何のたとえで語られたのでしょうか。

7．サマリアの女の人のありのままの話が町の人をイエス様のところへ導きました。でも町の人にはサマリアの女の人の話はもう必要がなくなりました。イエス様と直接出会ったからです。皆さんを教会に導いてくれたのは誰でしょうか。両親、お友達、先輩｡そのような人が皆さんにとっての今日の話のサマリアの女性ではないでしょうか。そして今度は皆さんが町に走っていく番です！